

【アナリストレポートJP】 企業分析レポートの見方

インターネット・インベストメント・テクノロジー
株式会社

はじめに

- 中長期のファンダメンタルズ投資を目指します
 - 推奨銘柄とは違う企業分析サービスを提供します
 - マクロ経済予測よりも個別企業の実態を重視します
 - インサイダー情報に基づく情報提供ではありません
 - 最終的な投資判断は自己責任でお願いします
-

この資料の目的

□ 企業分析レポートの各項目について説明をすることで、会員に有効なレポート活用法を提案する

①事業内容

②事業構成(部門別収益)

③定量分析(健全性、収益性、成長性、割安度)

④定性分析(各種情報ソースの解釈)

⑤投資判断(割安・妥当・割高)

⑥株価推移(過去1年間のチャート)

アナリストレポートの情報ソース

- 企業のWEBサイト
会社概要、企業理念、商品・サービス、採用、IR
 - 開示情報
決算短信、有価証券報告書、事業報告書
 - IR関連取材
メール、電話、会社説明会
 - 四季報
業績予想データ、同業他社比較
 - その他
-

サンプル企業例

7561 ハークスレイ

□ 事業内容、事業構成

事業内容

1. 事業内容

持ち帰り弁当「ほっかほっか亭」の西日本地域担当。1府13県で展開。

事業構成

2. 事業構成

弁当事業:100
(加盟店部門:64、直営店部門:26、その他部門4、他6)

サンプル企業例

7561 ハークスレイ

□ 定量分析

企業業績

3. 定量分析

【業績・財務】	売上高	売上総利益	営業利益	経常利益	当期利益	総資産	株主資本
2004年3月	26,253	8,545	2,876	3,165	1,687	24,764	19,716
2005年3月	25,372	8,988	2,687	3,000	1,721	26,364	21,363
2006年3月	24,535	8,831	2,316	2,898	1,034	26,458	21,657
2007年3月	24,850	---	---	2,940	1,630	---	---

※2007年3月はInfoseek予想から

割安度

【株価指標】	PER	修正PER	PBR
2006/6/30	12.8倍	11.8倍	1倍

健全性

【健全性】	株主資本比率
2006年3月	81.9%

収益性

【収益性】	ROE	ROA	売上高 粗利率	売上高 経常利益率
2006年3月	4.8%	11.0%	36.0%	11.8%
2007年3月	7.5%	11.1%	---	11.8%

成長性

【成長性】	売上高 成長率	経常利益 成長率
2006年3月	-3.3%	-3.4%
2007年3月	1.3%	1.4%

サンプル企業例

7461 ハークスレイ

□ 定量分析コメント(健全性)

4段階で評価

(1)【健全性】・・・4

株主資本比率が 81.9%と高く、収益も安定しているため、健全性に関しては問題ない。

健全性の定量指標だけでなく、
分析企業の事業特性を踏まえて
コメントしている

【健全性の定量指標】
※株主資本比率＝株主資本÷総資産

サンプル企業例

7461 ハークスレイ

□ 定量分析コメント(収益性)

4段階で評価

(2)【収益性】・・・2

収益性は一定程度安定しているものの、ここ数年間は横ばい、ないしは、減少傾向が続く。会社側の業績予想は強気であるが、ここ数年間はそれが達成していない。これは、競争激化によるものであることが考えられる。

収益性の定量指標だけでなく、分析企業の事業特性を踏まえて収益性をコメントしている

【収益性の定量指標】

※ROE＝当期利益÷株主資本

※ROA＝当期利益÷総資産

※売上高粗利率＝売上総利益÷売上高

※売上高経常利益率＝経常利益÷売上高

サンプル企業例

7461 ハークスレイ

□ 定量分析コメント(成長性)

4段階で評価

(3)【成長性】・・・1

ここ数年間は、売上高・利益ともに横ばい、ないしは、減少傾向が続く。これはスクラップ&ビルド戦略といっても、スクラップ店舗の数のほうが多いことが物語っている。

成長性の定量指標だけでなく、分析企業の事業特性を踏まえてコメントしている

【成長性の定量指標】

※売上高成長率＝

今期売上高÷前期売上高－1

※経常利益成長率

今期経常利益÷前期経常利益－1

サンプル企業例

7461 ハークスレイ

□ 定量分析コメント(割安度)

4段階で評価

(4)【割安度】…3

会社予想をベースとした PER は 12.8 倍、修正 PER は 11.8 倍であるが、増収・増益を前提としており、現状の月次売上の推移からはこの数字の PER は割り引いて考えなければならない。PBR1 倍割れであることと、自社株買いの決議価格が 2000 円であることが下支えの材料。ここから、何らかのショックで株価下落をすればチャンスであるが、現状では妥当と考える。

割安度の定量指標だけでなく、分析企業の事業特性を踏まえてコメントしている

【割安度の定量指標】

※PER = 時価総額 ÷ 当期利益

※修正PER =

時価総額 ÷ (経常利益 × 0.6)

※PBR = 時価総額 ÷ 株主資本

サンプル企業例

7461 ハークスレイ

□ 定性分析(事業内容の説明、現状の課題、など)

持ち帰り弁当ではよく知られている『ほっかほっか亭』の西日本エリアを担当。売上・利益の減少傾向に歯止めをかけるのが、当面の課題。

同社が展開している事業内容は、持ち帰り弁当では良く知られている『ほっかほっか亭』の西日本エリアの担当である。(それ以外の地域は、プレナス(9945)が展開。)

現状においては、事業環境はやや逆風であり、過剰供給による店舗の陳腐化が激しいことが挙げられる。

これは、2006年3月期の決算説明会でもなされているように、以下のような施策を掲げている。

- * 小型店舗から大型店舗への転換による集客力アップ
- * 未開拓であるデリバリーサービスの掘り起こし
- * 「阪神カミッサリー」の設立による商品グレードの見直し

定性分析の見出しは
太い青文字。
現状の課題等が、
端的に表現される。

サンプル企業例

7548 ハークスレイ

□ 定性分析(業績見通しに対する妥当性)

会社計画や四季報
予想が必ずしも妥当
であるとは限らない。
それを踏まえてより
深く分析する。

ここ3年間においては、「売上高前年比が、既存店ベースでも全店ベースでもプラスが殆どない」「出店と閉店の数を比べると、閉店が出店を上回っている」といったことが確認できる。

この現状は2007年度も継続する可能性が高く、特にFC店の脱退が多い。今後の課題は、いかにこの傾向を食い止めるかがであるが、現状においては有効な施策が見られない。実際、2007年度においても、4月・5月はこの傾向が続いている。

これらのことから、2007年3月期に掲げている増収増益シナリオの達成はかなり困難であり、逆に減収減益である可能性のほうが高いと考えるのが妥当である。

【7561 ハークスレイの四季報予想】

【業績】	売上	営業利益	経常利益	利益	1株益(円)	1株配(円)	1株営業CF	1株株主資本
連02. 3	26,499	2,685	2,926	900	106.9	30	238.3	2,114
連03. 3	26,999	2,975	3,271	1,486	181.2	30	283.4	2,288
連04. 3	26,253	2,876	3,165	1,687	211.3	30	278.3	2,487
連05. 3	25,372	2,687	3,000	1,721	164.4	80記	194.5	2,038
連06. 3	24,535	2,316	2,898	1,034	97.1	40	176.9	2,056
連07. 3予	24,900	2,330	2,900	1,600	145.6	40	配当利回	2.03%
連08. 3予	25,500	2,400	3,000	1,630	148.4	40		
中05. 9	12,104	1,154	1,396	184	17.6	15	78.6	1,991
中06. 9予	12,100	1,150	1,390	750	68.3	20		
単07. 3予	23,600	2,400	2,930	1,600	145.6			

サンプル企業例

7461 ハークスレイ

□ バリュエーション(定量指標＋定性判断)

定量指標に加えて、定性判断を加えた投資判断とその根拠が示されている。

6. バリュエーション

2006年3月期の実績は、売上高24,535百万円、経常利益2,898百万円、当期利益1,034百万円であった。前期の当期利益が経常利益に対して大幅に少ないのは、「固定資産の減損に係る会計基準」の適用によるものである。

そして、2007年3月期は会社予想によると、売上高24,850百万円、経常利益2,940百万円、当期利益1,630百万円を見込んでいる。

現状の時価総額が20,877百万円であることから、予想 PER は約12.8倍となっており、割安であると捕らえられなくもないが、会社予想が増収増益を前提としていることに注意しなければならない。

以上のことから、分析結果としては「妥当」という判断である。

サンプル企業例

7461 ハークスレイ

□ バリュエーション(その他補足事項)

定量指標・定性判断
で取り上げなかった
項目で、投資判断に
影響を与える項目が
あればそれも補足と
して説明。

ただ、

「PBR が 1 倍割れであること」

「自社株買い決議として想定買付単価が2,000円であること」

から、現状の1,900円という株価水準は下値不安が少ないのも事実であり、もし何らかのショックで株価が現状よりも大幅に下落したならば、そこは買いチャンスであると考えられる。

自社株買いの決議

http://www.hurxley.co.jp/ir/news_release/pdf1/36.pdf

サンプル企業例

7461 ハークスレイ

□ 株価推移

参考情報として、過去1年間のチャートを掲載

